

# 第6回 あつぎ気候市民会議 会議録

## ■ 日時・場所

日時：2023年11月26日（日）13:00～17:00

場所：サイエンスホール 250（あつぎシティプラザ6階）

## ■ 出席者

参加者：37名（欠席11名）（a～fの6グループを編成）

専門家：松原弘直氏（環境エネルギー政策研究所（ISEP））、梶田佳孝氏（東海大学）、村上千里氏（消費生活アドバイザー）

ゲスト：江守正多氏（東京大学未来ビジョン研究センター）、茅野恒秀氏（信州大学）、三上直之氏（名古屋大学大学院）、渡部厚志氏（地球環境戦略研究機関）

ファシリテーター：岩崎 茜氏

## ■ プログラム

13:00～	開会、厚木市より挨拶	厚木市環境政策課 向山宏和課長
	ふりかえり、本日の内容説明、今後の進め方	
13:30	グループ討議 アクションプランの「原案②」について	
14:40	（休憩）	
14:50	「マイアクションプラン」を考え、発表 （発表後は交流の時間を設ける）	この間に実行委員会がグループ討議の結果を取りまとめる
16:15	アクションプランの最終案の確定	
16:25	専門家・ゲストによるコメント 今後の連絡等	（※当日の進行の都合上、実際はマイアクションプランの発表に続けて実施した）
17:00	閉会	

## ■ 配布資料

### 【事前配布（配信）】

- ・あつぎ気候市民会議 第6回会議案内
- ・あつぎ気候市民会議 脱炭素市民アクションプラン原案①投票結果
- ・あつぎ気候市民会議 脱炭素市民アクションプラン原案②

### 【補助資料（第2回で配布）】

- ・厚木市カーボンニュートラルロードマップ資料 他

## 1. 開会 挨拶・内容説明等

開会に当たり、厚木市環境政策課の向山宏和課長が挨拶として参加者へ感謝の言葉を述べた。

続いて、実行委員会より、前回までのふりかえりと今回の内容及び今後の進め方の説明を行った。

まず、第 5 回市民会議の終了後に取りまとめた「アクションプラン原案①」に対する投票の結果と、それに基づいて作成した「アクションプラン原案②」の概略を説明し、次いで本日のグループ討議において改めて検討してほしい「原案②」の項目を挙げた。これは、「原案①」の時点から情報を変更・追加したもの、投票時に寄せられたコメントを新たに反映したもの、「原案①」では説明不足であったため修正した事項等で、本日のグループ討議の中で適宜修正または取捨選択することで、アクションプランの最終案の確定を目指すとした。

### 参考：アクションプランの検討の流れ

10月15日 (第5回会議)	素案をたたき台としたグループ 討議(分科会形式)
10月15日～	実行委員会が討議結果を整理 →「原案①」を作成
11月2日～6日	「原案①」に対する投票(Web)
11月19日 (配信)	投票結果に基づき、実行委員会が 「原案②」を作成・提案
11月26日 (第6回会議)	「原案②」についてグループ討議 →最終案を確定
11月30日～12月3日	最終案に対する投票(Web)
12月	投票結果を反映しプランを完成

(随時専門家やアドバイザーと協議しながら案の作成を進めた)

## 2. グループ討議

本日のグループ編成に当たっては、前回までの A 分科会及び B 分科会の両方のメンバーが各グループに入るようにし、各分科会間の相互理解を図りつつ総合的な議論を行うことを目指した。

議論のゴールは、「原案②」の中で実行委員会が挙げた 15 項目(小項目 14 件・中項目 1 件。以下、「検討項目」)について、それぞれ ①そのまま残す、②文言を修正する、③削除する(③の対象は小項目のみ) のいずれかを判断し、②の場合は修正文言を示すこととした。

グループ討議は、まず冒頭で各自が各検討項目に対する個人の判断を付箋に書き出し、続いてその内容をグループの中で共有し、グループとしての意見をまとめるという手順を進めた。

グループ討議の終了後、実行委員会が全 6 グループの検討結果を統合し、脱炭素市民アクションプランの最終案として確定させる作業を行った。

## 3. 「マイアクションプラン」の発表

全 6 回の会議を通して参加者一人一人が「これが大事・自分はこれをする」と考えたことを「マイアクションプラン」としてまとめ、内容とその理由を一人 30 秒で全体に向けて発表した。

発表では、「エネルギー不足や気候変動を、遠くの出来事ではなく自分事として考え、今の気持ちを忘れない」「家から出るごみをゼロに近づける。生ごみはコンポストを利用し、マイボトルを持参する」「太陽光発電設備の導入を推進する事業者の活動が成立していると聞いたので、しっかり協力していきたい」「カーボンフットプリントの普及をもう一度考える。また、次の市議選の際に脱炭素について言う人がいれば注意深く聞いてみる」「自宅の断熱リフォームを DIY で行う。新しい取組としてやってみたい」「健康で元気でいて、日常生活は徒歩で暮らせるようにする。断熱リフォームの支援をよく知り、できれば断熱の窓を付けてみたい」等、これまでの会議の内容を受け止め、さらに自分事として発展させていく内容が次々と挙がった。発表された「マイアクションプラン」については別途取りまとめて公開予定である。

発表の後は、これまでの会議で情報提供を行った 3 名の専門家からのコメントの後、全体交流の時間を設け、参加者、専門家、ゲストが自由に話せる時間とした。

専門家からのコメントの概要は以下のとおりである。

- 松原氏：素晴らしいアクションプランがもうすぐ出来上がる。再生可能エネルギーに関する話題提供をしたが、アクションプランでは主に太陽光についてかなり細かく考えられた案が出ており、非常に素晴らしいと思う。今後実行するにはどうしたらいいか、次のステップで考えていただけるとよい。今後とも頑張ってもらいたい。
- 梶田氏：移動とまちづくりについて話題提供した。「マイアクションプラン」でも環境にやさしい移動・交通について色々な提案があった。移動は生活と切っても切れないので自分なりに取り組みやすいかと思う。まだ周りの環境ができていない場合もあるが、皆さんが使うことによってよりよくなっていくよう市や事業者に促していきたい。
- 村上氏：アクションプランは共感するものやぜひ実現したいと思うものばかりだった。「マイアクションプラン」でもエシカル消費に触れたものや周りの人に伝えたいといった言葉があった。一人一人がすることは小さくとも、合わさると大きな力になっていく。「買い物は投票」という言葉がある。私たちの消費行動が変わることで企業が変わり、売っているものを作る会社も変わり、社会を変える力にもつながる。政策を変えることも大切でそれはぜひ市と連携しながら実現してほしいし、それと併せて消費を通じて企業を変えていくことも進めていければと思う。

#### 4. ゲストによるコメント

全体交流に続いて、4 名のゲストからコメントが寄せられた。概要は以下のとおりである。

- 江守氏：アクションプランの文言についてじっくりくるまで真剣に議論されていた。ここまで議論すると、本当に自分たちが作ったというオーナーシップを感じると思う。内容に関しては素晴らしい提案が多数出ており、これがどう社会の中に実装されていくかが重要である。皆さん自身がこの市民会議に来てすごく変わったことは疑いないが、最終的には厚木市全体が変わらないといけない。皆さんが周りに働きかけて変えていくということもぜひお願いしたいが、これから皆さんの提案がルールになるところまで、この会議終了後も意識して見て、監視して行ってほしい。
- 茅野氏：半年にわたる議論に敬意を表したい。長野県において地域に根差した具体的な脱炭素アクションプランを組み立てて県民運動を作ってきた経験から言うと、EV へのシフト等のグローバルな社会の変化を、国や県の協力を得ながら、市や地域でローカルな変化としてどううまく受け止めながら暮らしをシフトしていくかがポイントかと思う。エネルギーやごみだけでなく、まちづくりや社会の高齢化・福祉の視点を考えるのもポイントとなる。市がアクションプランを政策化していく局面で、長期にわたってぜひ厚木市のまちづくりに関わってほしい。  
(アクションプランで想定した) 2050 年は今から 27 年後である。それがどのくらいの時間かという例を挙げると、1945 年の終戦から 1972 年までの 27 年間は戦後復興からオリンピックや公害問題などを経て高度経済成長が終わるまでだった。27 年間で社会は結構変わるということだ。変化を起こせるのは私たち一人一人である。

■三上氏：今年全国で実施されている気候市民会議の中でも、厚木市は市民と行政が実質的に非常に協働して主催している面で珍しい。アクションプランにもよくその特徴が表れている。全国に先駆ける会議に参加されプランを作り上げたことを誇りに思っただければと思う。

今日の議論で特に白熱していた項目については、行動を起こす必要があるという認識は一致しているものの、実際に行動した時の効果や、困る人が出てくるとことや負担や副作用の懸念が思い浮かんだものと思う。多分、これから最終的なアクションプランをどう実現するかに移る際にも、今日のような議論は尽きず、進める上でこれまで出たような議論を続けていく必要がある。アクションプランの完成はそのスタートになるのではないかな。

■渡部氏：修正について議論する中で、「その修正が実際に取り入れられたらどうなるのか、悪い影響を受ける人がいるかもしれない」といった、普段の市民・消費者としての生活から一歩外に出た想像力で、周りの人・地域や暮らしのことまで考えているのが非常に素晴らしかった。実はそういうところにしか社会を変えていくチャンスはないのではないかな。

「マイアクションプラン」では、周りや子供たちに伝えて一緒に巻き込んで行動を起こすという方が多かった。専門家・ゲストの話をただ聞くだけでなく、例えば子供やおばあちゃんにはどう話したらわかってもらえるか、「専門家はそう言うが実際はできなかないか」などと考える中にこそ、皆さんの暮らしやこの地域に本当に大事な知識が生まれる。ただ聞くだけでないことを6回の会議で繰り返してこられたということが良くわかる最終回だった。

## 5. アクションプランの最終案の確定

「原案②」に関する本日のグループ討議の検討結果を反映させたものを脱炭素市民アクションプランの最終案として確定し、実行委員会から修正箇所について説明を行った。15件の検討項目のうち、①そのまま残すものは3件（うち1件は文言の注釈を追加）、②文言を修正するものは12件、③削除するものは0件となった。

この最終案について、第6回会議終了後に各取組に対する推進程度を問う投票（Web）を行い、参加者一人一人の最終的な意思表示の結果を受けてアクションプランが完成となる旨も説明した。なお、最終案の内容は、投票結果等と合わせて後日公開する。

## 6. 閉会

実行委員会の鷺谷雅敏実行委員長より、閉会の挨拶として参加者への感謝と次年度の展望を述べた。続いて実行委員会より、会議終了後の流れや、12月9日に実施する意見交換会及び2月17日に実施する脱炭素市民アクションプランの報告と次に向けての集いについて説明を行った。

最後に集合写真を撮影し、全6回の市民会議は終了した。

以上